

## 製造業、非製造業とも景況DI値は好転したものの、予断を許さない

12月の情報連絡員報告によると、製造業、非製造業とも景況DI値が10ポイント近く好転した。売上高、収益状況も同様の数値を示しているが、比較対象となる前年同月期の景況が極端に悪化していたことから、多分に見かけ上好転したに過ぎないとも考えられる。また情報連絡員の報告からは、年末需要の不振について、多くの声がよせられている。

【製造業63人、非製造業87人、計150人の集計】

### 各項目のDIの動き (前年同月比)

	全 体	製 造 業	非製造業
売 上 高	😊	😊	😊
在 庫 数 量	😊	😞	😊
販 売 価 格	😞	😞	😞
取 引 条 件	😊	😊	😞
収 益 状 況	😊	😊	😊
資 金 繰 り	😊	😊	😊
設 備 操 業 度	😊	😊	—
雇 用 人 員	😞	😊	😞
業 界 の 景 況	😊	😊	😊

😊 …増加、上昇、好転

😐 …不変

😞 …減少、低下、悪化

## ✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
木材・木製品	建具製造業	需要を喚起する具体的な住宅政策を早急に打ち出してほしい。
小 売	自動二輪車小売業	自動二輪車もエコカー減税や補助金の対象とすることを検討してほしい。
	化粧品小売業	地域商業の衰退を見過ごして良いのか。大企業中心の施策を見直していただきたい。

平成21年  
12月

# 業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	麵製造業	粉価の下落にかかわらず、売価は維持することが出来た。また、年末の売上げも好調であった。
	製粉業	小麦の備蓄制度が国から民間に移管されたが、備蓄に要する経費等について、どのような助成措置が行われるかが関心事となっている。
繊維・同製品	帽子製造業	今年の寒冷な気候により、ニット帽の売上げが好調である。デパートにおいて帽子は雑貨部門に位置づけられるが、雑貨部門中、一番の売上を計上しているとのことである。
	帆布製品製造業	12月の売上高は、前年比15%の減少となったが、一般管理費の削減等により何とか経常利益を確保している。
	洋服製造業	売上数量は回復してきたが、単価の下落により収益性が悪化した。
	ニット製品製造業	派遣労働法が改正された場合の悪影響が懸念される。
木材・木製品	建具製造業	年末需要も極めて不振であった。各事業所の体力低下が著しい。
印 刷	印刷業	経済産業省の統計では印刷物の売上金額は13ヶ月連続して減少との集計結果がある。需要回復の兆しは全く見えない。
	印刷加工業	売上が伸びず、先行きも見えないという状況が、組合員のモチベーション低下の一因となっている。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	需要は相変わらず低調。12月期は前年比90%。円高により医療用品等でも中国製品のシェアが増加している。
	ゴム製品製造業	好転しつつある企業が僅かながら増えてきた。しかしながら二番底を懸念する経営者も多い。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	新政権は公共工事の削減を表明しているので、先行きの見通しは非常に暗い。公共工事依存型の体質を早急に改善することが求められている。
	碎石製造業	骨材出荷量が大幅に落ち込んでいる。都内工事に使用する碎石については地産地消の観点からも、都内産碎石の使用を行政に対し促す必要がある。
	生コンクリート製造業	需要の減少が続いている。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	組合員間に受注の回復度合の差が生じている。また、比較的状況の良い組合員についても先行きの見通しは立っていない。
	鋳物製造業	受注量が全体的に減少傾向にある。
	鍍金加工業	受注量の減少と過当競争は経営が成立する限界を超えており、先行きの不安感が増大している。やむなく事業廃止を選択せざるを得ない事業者も発生した。
	製缶業	売上の減少幅は縮小しているが、依然、経営環境は厳しい。
	建築金物製造業	前年比で売上高、収益状況の悪化が続き、非常に厳しい状況にある。
	ダイカスト製品製造業	先月と変わらず、売上高の減少、収益状況の悪化が続いている。
輸送用機器	自動車部品製造業	12月の売上高はようやく前年比で増加に転じたものの、平成20年10月以前の売上高に比べると60%程度であり、依然厳しい状況にある。
一般機械	写真製版機材製造業	印刷業界全体の売上高が落ち込んでいる。印刷料金の低下は材料価格に直結しており、収益状況はますます悪化している。
	精密工具製造業	景況は依然各社とも厳しい状況にある。
その他の製造	工業塗装業	前年比で若干悪化の傾向にある。
	ガス圧接業	12月に入り稼働率はさらに低下した。建築着工件数の減少に拍車がかかっており、単価の下落も底が見えない状況である。
	スポーツ用品製造業	健康増進を目的としたスポーツへの取り組みが盛んになっており、関連市場は堅調であった。

平成21年  
12月

# 業 界 の 声

## 非 製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	家具卸売業	家具卸売業界も減収減益が続く中、1年をよく持ちこたえることが出来た。
	理容用品卸売業	従来の営業方法では販路の開拓はおぼつかない。薬剤やアイロン、ハサミ等、商品の特性を活かす使用方法をテーマとする講習会を開催するなど、顧客をフォローする営業が売上に繋がっている。組合員の中には有志を募り、共同で講習会を開催し大きな成果を上げた事例が注目を集めている。
	食肉卸売業	消費の不振は極めて深刻な状況にある。
	ニット製品卸売業	業界全体で売上げ不振が続く。価格競争の激化により企業の体力消耗が懸念される。
	電線卸売業	平成21年は荷動きの無いままに終了した。現在、平成22年春夏の受注動向が注目されている。
	再生資源卸売業	3期分の組合事業実績を比較すると、毎年実績は落ち込んでおり、上昇機運は見られない。
	銅製品卸売業	平成20年11月以降の大幅な状況悪化に比べて、前年比の数字は見かけ上改善はしているものの、実態として厳しい状況に変わりはない。
	木材卸売業	住宅着工件数の大幅な落ち込みにより、荷動きは停滞している。
	美容用品卸売業	年末セールの売上高は伸び悩み、厳しい年越しとなった。
	紙卸売業	厳しい景況下で1年を何とか乗り切ったが、平成22年に目を向けると明るい材料は見えてこない。各社ともコスト削減も限界に達し、さらなる対応は厳しい。
	玩具卸売業	玩具業界の最需要期であるクリスマス商戦の動向が注目されたが、昨年並みの売上を確保できたと思われる。しかしながら昨年の売上状況が最悪であったことを考えると手放しには喜べない。
	食器卸売業	飲食業界の不況が止まらない。12月は食器の需要期であったが、今年は不調に終わった。
小 売	化粧品小売業	化粧品全体の売上が落ち込んでいるとのメーカー各社の発表があるが、ドラッグストアー、スーパー、ディスカウント店との競争により、組合員店舗の状況は一層厳しいものとなっている。
	木材小売業	高級品、廉価品に関係なく売上が上がらない状況が続いている。
	青果小売業	価格競争が激化する中で小売店は、漬物や石焼き芋等、手を加えた商品の販売に力を入れている。
	古書籍小売業	12月の売上高は久しぶりに増加した。この傾向が持続するか否かはわからないものの、来年以降に期待したい。
	包装材料小売業	年度末を控え、脱退予告を行う組合員が増加している。年間数万円の賦課金負担も困難になっている。
	酒小売業	売上の不振を極め、最悪の1年であった。企業の交際費削減に伴う、飲食店利用の減少も一因であると思われる。
	文具小売業	エコ対応商品や使い勝手の良い新製品の開発が進んでいるが、小売店の販売には結びついていない。廉価品の輸入量増加の影響も大きい。
	食品小売業	季節物商品の動きが年々悪くなっている。その影響が12月の売上状況にも現れている。年末が特別な時期ではなくなった感がある。低価格指向は相変わらず続いている。
	電器製品小売業	液晶テレビの販売価格が下がっており、電器店はアンテナ工事を併せて受注することで利益を確保している。高齢者向け地上デジタル放送普及策である個別訪問相談事業によって需要の掘り起こしが期待されることと、経済対策の一環であるスクールニューディール構想によって小・中学校における教育用テレビ・DVD機器等の更新需要が生まれていることが明るい材料と言える。
	中古自動車小売業	環境対応車への優遇措置が新車の追い風となっている一方、中古車はその影響により販売台数を減らしている。
	衣料品小売業	冬物バーゲンを早期に実施したものの、前年実績に届くことが出来なかった。
	各種小売業	組合員の売上高は前年比マイナスの状況が続いている。当組合の主力事業であるカード事業についても同様で、一部飲食店では年末にもかかわらず11月実績よりも良くない感がある。
豆腐小売業	廃業組合員が続出。（11月4名、12月17名）協同組合の運営が一段と厳しくなった。	

小 売	鮮魚小売業	年末商戦はまずまずの成果を上げたが、12月全体では前年比減少となった。
	文具小売業	平成21年は大手小売店間の値下げ競争が横行し、利益無き価格競争が横行した。零細企業が生き残るには、安易に安売りに走ることなく独自の販売戦略を見つけ出すほかない。
	眼鏡小売業	客数の減少、単価の値下がり、売上減少の三重苦にあえぐ組合員が増加している。
	自転車小売業	12月の天候は寒さが著しく、売上に悪影響を与えている。
商店街	秋葉原	12月に入り中国系を中心とした外国人客が若干増加した。ビジュアル関連は順調であるが売価は下落。除菌機能搭載の小型空調機器は堅調。
	目黒	年末の回復を期待したものの、前年の売上高には及ばなかった。販売価格の下落も収まっていない。
	銀座	12月は前年並みの売上を期待していたが、結果は及ばなかった。
サービス	廃棄物処理業	景況の悪化が1年前から続き、回復の兆しも見えない。再資源物の価格は若干回復している。
	自動車整備業	自動車保有台数の減少の影響が出始めている。一方、新車が売れることで整備が減るといふ現象も起こっている。
	クリーニング業	洗濯の絶対的な必要性からクリーニング業界は安定業種と考えられていた。しかし、現状を見るとこれ以上の顧客離れを防ぐための努力が必要である。
	複写業	年末商戦は振るわなかった。事業年度の変わり目を期待しているが、現在の景況下では心許ない。
	飲食業	忘年会の開催を控える企業が多く、シーズンであるにもかかわらず売上は伸びなかった。
運 送	貨物自動車運送業	組合員の高齢化と受注量の減少により、組合からの脱退と廃業が増加している。
	貨物自動車運送業	売上は一向に回復しない。ここに来てさらに運賃の引き下げを行う組合員も現れている。しかしながら、厳密な経営管理を行い、健闘している組合員も見受けられるなど、企業間の格差が現れている。
	港湾運送業	世界同時不況の余波を受け、取り扱い貨物が減少し続けた1年であった。
建 設	鉄筋工事業	受注量、単価とも非常に厳しい状況が続いている。